

令和7年度 秩父市地域おこし協力隊活動報告

【自己紹介】

氏名 野原 尚起

所属： 森づくり課

着任：令和7年 4月 1日～

出身： 埼玉県 坂戸市

秩父市の印象

お祭り文化が盛んでいつも賑やかな印象です。
特に年末の秩父夜祭は一段とにぎやかで伝統と文化を感じます。

町から山がとても近く、荒川も流れているので、水と植物の豊かな自然の風景にいつも癒されています。

どんな地域おこしがしたいか

協力隊の活動のミッションでもある自伐型林業の実践を通して全国的にも、秩父地域とでも課題である放置山林の解決のきっかけを作っていきたいと考えています。

環境保全型の林業に取り組み、山林の新たな価値を探していきたいと考えています。



森林環境教育

地域の小学生の森林環境教育に関わらせていただきました。切った木をロープを使って、みんなで一緒に引っ張って寝かせる体験をしてもらいました。他にも林内の植物を観察と一緒に勉強させて頂きました。

秩父地域の小学生ならではの環境教育でも良いプログラムだと思いました。同日に製材所なども見学するそうで、身近に使われている木がどこからきてどのように今の形になっているかを学ぶそうです。木を伐りだす様子を間近に見る経験はなかなかできない貴重な経験のように思います。森を大切に、親しむ思いが少しでも心に残ってくれたら嬉しいです。



自伐型林業の実践

手入れが遅れているヒノキ林の間伐、整備を行っています。森の中に木漏れ日が入るようになり、木々の緑と空の青さのコントラストが際立ちます。風通しも良くなり、気持ちの良い空間が出来上がります。手入れされた森を訪れた人は一様に柔らかな表情を見せられます。

本年度は樹齢55年生のヒノキを150本ほど間伐しました。山の地形や、木を集めることを考えながら切る為、観察力と判断力が養われ、チェーンソーの扱いも上達しました。チェーンソーは重さが5キロほどあり、入隊前より肉体も強化されました。



作業道の敷設

自伐型林業を行う上で最も重要なのが作業道です。活動では幅員2.5mの3tトラックが走れる道を作っています。4WD車であれば普通車も走れる設計です。

作業道があることで山へのアクセスが良くなり、日々の森の手入れがしやすくなります。また、歩きやすくなるので林業以外での活用も可能になります。

山の可能性が広がる作業道をお持ちの山にも敷設しませんか。

活動目標

- ・自伐型林業の実践を行い、林業技術を習得して地域の林業の担い手になる！
- ・3年後に林業を主軸に自立定住を目指す！

活動内容

- ・秩父市所有の山林で自伐型林の実践。
- ・市街地の秩父市所有の森林の整備。
- ・森づくり課のイベントへの参加。
- ・森林整備のボランティア活動への参加。
- ・林業を行うための資格取得。研修への参加。
- ・自伐型林業先進地域の視察。

今後の活動

地域課題である放置山林の整備を行い、地域の資源を活かした新たな魅力づくりをしていきたいと考えています。

ビオトープ管理士の知識と自伐型林業の実践で得た経験と知見で、地域の放置山林を多様な生き物が生息する場に生まれ変わらせていく事が目標です。

